

第53回 ギャラクシー賞 ラジオ部門に TOKYO FM の3作品が入賞！ ～選奨2作品・奨励賞1作品を受賞しました～

6月2日、「第53回ギャラクシー賞」(放送批評懇談会)の贈賞式が都内で行われ、ラジオ部門において、TOKYO FM 制作の番組が選奨2作品、奨励賞1作品を受賞しました。選奨は、Date fm(エフエム仙台)・TOKYO FM 共同制作『ライターをつぶやき～河北新報の5年～』と、10代向け生放送番組『SCHOOL OF LOCK!』、奨励賞は、戦後70年特別番組『ポップコーン・オン・ザ・ギンザ 1945-1952』がそれぞれ受賞しました。

「第53回ギャラクシー賞」において、合計3作品の受賞を果たし、TOKYO FM の番組制作力の高さが評価される結果となりました。

詳しくは「放送批評懇談会」のホームページ(<http://www.houkon.jp/galaxy/>)

【受賞作品ご紹介】

《選奨》 Date fm(エフエム仙台)・TOKYO FM 共同制作『ライターをつぶやき～河北新報の5年～』



<放送批評懇談会の講評より>

東日本大震災から5年。成人の日に起きた、たった1日の奇跡の物語。震災で亡くなった少女が、母親に想いを伝えるためにこの世に現れます。ドキュメンタリー番組では決して聴くことのできない亡くなられた方々の想いに寄り添う感動的な作品。被災した人々の生の声を織り交ぜ、「失われた命」と「生きている命」を描き出す、心にしみるファンタジックな秀作です。

《放送日時》 2016年3月6日(日) 19:00～19:55

《放送局》 TOKYO FM をはじめとする JFN38 局ネット

※FM沖縄のみ、同日 21:00～21:55 放送

《出演者》 山崎一、大後寿々花、辻しのぶ／阿部喜英(女川町梅丸新聞店)、
武田真一・門田勲・菊地道治(河北新報社)／木村圭(宮城県立石巻高校)

ナレーター: Date fm(FM 仙台) 石垣のりこ

《スタッフ》 プロデュース・原案: 延江浩、演出: 伏見竜也、取材・演出: 黒川美沙子

脚本: 北阪昌人、演出補助: 伊藤慎太郎、方言指導: 木村祐二(エフエム仙台)

《選奨》 『SCHOOL OF LOCK!』 (2016年2月17日放送「学校なんか早く卒業したい」)



＜放送批評懇談会の講評より＞

「未来の鍵を握るラジオの中のもうひとつの学校」として10年以上続く人気番組です。この日のテーマ「学校なんか早く卒業したい」に寄せられた「不登校で卒業式に出る気もない」という中3女子の声に、とーやま校長とあしざわ教頭が耳を傾け、話すうちに少女の気持ちが徐々に変化していくのが伝わりました。リスナーからのメールも効果的で、生放送の醍醐味を感じました。

《放送日時》 2016年2月17日(水) 22:00～23:55 放送
 《放送局》 TOKYO FM をはじめとする JFN38 局ネット
 《出演者》 とーやま校長、あしざわ教頭
 《スタッフ》 プロデューサー：平岡俊一(TOKYO FM)、演出：鈴木喜朋(bluefloower)
 構成作家：高田亮太(フリー)、構成補助：稲村美穂(フリー)
 演出補助：矢島卓(フリー)、山口雄一郎(フリー)

《奨励賞》 戦後70年特別番組『ポップコーン・オン・ザ・ギンザ1945-1952』

＜放送批評懇談会の講評より＞

忘れていくかもしれないが、戦後70年のうちの7年間、日本は米軍の占領統治下にあった。当時は「リトルアメリカ」と呼ばれた銀座をロバート キャンベルが辿る。一瞬、懐かしさを感じるが、占領政策の裏に隠されていたGHQの巧妙な文化的検閲の事実を明らかにする。光の裏の闇が見える、狂言回しに猫を登場させる演出も巧い。

《放送日時》 2015年8月31日(月) 19:00～20:45
 《放送局》 TOKYO FM
 《出演者》 ロバート・キャンベル(日本文学者／東京大学教授)
 十重田裕一(日本近代文学研究者／早稲田大学教授)
 秋吉敏子、湯川れい子
 白石加代子
 長塚圭史、町田マリー、玉置玲央、中村まこと
 (以上、ゴーチ・ブラザーズ)
 《スタッフ》 企画：ロバート キャンベル
 プロデューサー：延江浩(TOKYO FM)
 ドラマ脚本：北阪昌人
 構成：浮田周男
 演出：武藤智子、伏見竜也
 演出補助：伊藤慎太郎、大泉ゆき

